

中学校区におけるめざす子ども像 ・正義のひと 善悪の判断ができる ・行動のひと 自ら進んで動ける ・勇気のひと チャレンジできる ・連帯のひと 他者の意見を聴き、他者と協働できる

堺市立さつき野小学校
校長 佐古田 英樹

令和7年度 重点目標
専門職としての資質能力の向上 × “それぞれの”ウェルビーイングの向上
～子どもをみる 子どもから学ぶ 教職員どうしが学ぶ 保護者の学習参画～

確かな学びの現状 R5年度は4つの情報活用能力(問いを持つ力・情報を集める力・整理分析する力・まとめ表現する力)を育成する授業づくりで、全教職員が一人一回公開授業を行い、実践を蓄積した。成果としては、教職員は情報活用能力を意識して授業をすることができたことである。一方、課題としては、児童が情報活用能力が身についたことを自覚できているのかという意見が、反省から出てきた。そこで、R6年度は、「自覚」をキーワードに、授業研究を進めていった。学校教育アンケートの結果を分析すると、児童は各教科と情報活用能力とのつながりを見出しにくいことがわかった。R7年度は、各教科における情報の特性をとらえて、児童が情報活用能力を発揮できるように、授業者が4つの情報活用能力を意識して授業実践をしていく。また、昨年度同様、小学校での基礎的学力の育成の取り組みとして、各学年「数と計算」領域の習熟をはかり、年度末には検定テストを実施する。	豊かな心・健やかな体の現状 数年前から行っている食育への取り組みや、体育行事として小中合同の大運動会、冬の持久走を行っている。大運動会は全学年合同で行い、中学生が中心となり大運動会の準備や運営を行う。体力の向上をめざしながら様々な学年と交流することで、人間関係の広がりやつながりを通して、上級生は下級生を思いやる気持ち、下級生は上級生に憧れを抱くなど、心の育みにもつながっている。また、小中での交流授業を行い、様々な学年と交流しながら学ぶ機会を設け、異学年との交流をする中で、多様な価値観に触れることができている。このように、小中一貫校の特徴を活かし、児童の豊かな心や健やかな体が育まれるように、活動の工夫をしている。
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	授業改善	情報活用能力を育成する授業づくりを通して、教科の見方・考え方を働かせながら、主体的に学ぶ児童生徒の育成	4つの情報活用能力を、教科の見方・考え方を意識した授業を通して児童生徒に育成する。	教師の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	A 学校教育アンケートで、88パーセントの教職員が肯定的回答をしている。	A 情報活用能力に関する項目の学校教育アンケートで、88%の肯定的回答をしていた。次年度は、道徳の大会(市道研)を開催するが、育成した情報活用能力をベースに道徳の授業づくりに努めたい。	A 教職員の「88%の肯定評価」については、個々の先生方が「課題意識を持っている」ことから表された評価だと思えます。さらに高い意識を持ち、その課題を克服されることを願います。また、成果を示す場を学校内外で増やしてほしいと思います。
			4つの情報活用能力がそれぞれ自分に身についたと思うか。	児童の肯定的回答80パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	A すべての学年の児童生徒が4つの情報活用能力を意識しているかで、80パーセント以上の肯定的回答をしている。	A 情報活用能力は、こどもたちにとって意識しにくいものであるが、教科の学習をしていくことで、確実に育まれつつある。どの教科でも、こどもたちが情報活用能力を発揮できるような授業づくりをしていきたい。	A アンケートでの肯定評価が80%以上はそれぞれの能力がこどもたちに理解されていることと思えます。さらに、全ての教科で「情報活用能力」を活かした「調べる力」等が伸びることを願っています。また、情報活用能力を効果的に形にできるツールの充実を期待します。
	基礎的学力	小学校6年間の各学年で、「数と計算」領域の検定テストを行い、四則計算の力を高める。	自主学習ノートで自分に合った学び方で取り組む	児童の肯定的回答90パーセント以上	学校教育アンケート	2学期末	A 平均すると肯定的回答が80パーセントを上回っている。ただし各学年で見ると、4～6年生は90パーセントを下回っている。	A 自主学習の取り組みも実践が蓄積されてきたので、こどもたちが自覚して、自ら学びを進めていくようにしていきたい。	A 「戸惑っている子への支援」や「さらに充実できる子への声掛け」をお願いします。また、児童主体の意識向上を期待します。
検定テストで、習熟をはかる。			検定テストの正答率90パーセント以上	検定テスト	年度末	年度末に評価します。	B 正答率は、1年生は90%を超えているが、2年生以降は90%に届いていない。授業の中で、基礎的な学力の向上にも今後取り組んでいきたい。	A 全国学力学習状況調査で全国トップレベルになることを願っています。その可能性があると信じています。	
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	小中連携し、9年間を通して人権意識を高め、豊かな感性、思いやりの心を育てる	物事を最後までやりきる成就感、達成感が得られるようにし、自己有用感を高める。	自己有用感にかかわる項目で、肯定評価 平均90%以上	学校教育アンケート	年度末	給食当番、係活動、トイレのスリッパを揃える、掃除、委員会などの活動を頑張っている子がアンケートで90%以上で、自分が他人の役に立っているという自己有用感を感じることができている。	A 自己有用感に関わるアンケートの項目で、肯定評価が平均90%以上であった。引き続き、子どもたちが自分以外の役に立てていると感じることができるような取り組みを行ってきたい。	A いろいろな活動で、「自信をもって意見を言い、行動できる」ことができるようになってきていると思えます。さらにさつき野のこどもたちの弱い面を、克服できる取り組みをお願いします。また、インテリジェンスの向上が日常生活に見られてうれしいです。
			1～9年生のたてわり「さつき野トーク」「大阪万博校外学習」「たてわり遊び」をはじめとする異学年交流を充実させ、自他の良さを認め合うことができるようにする。	異学年交流についての項目肯定評価80%	学校教育アンケート	年度末	今年度より「さつき野トーク」をはじめとするたてわり活動を本格実施した。アンケート項目では95%と肯定的意見が多かった。小中一貫校ならではの特性や良さが少しずつ形になってきている。	A 「異学年の人と交流するのは良いことである」と95%の児童が答えている。たてわりでの活動が児童にとって意味のある活動であったといえるだろう。この取り組みが一過性のものにならないよう、来年度も継続していきたい。	A いろいろな形式での異学年交流をさらに充実させ、こどもたちの全ての学校生活に生かしていただくをお願いします。異学年交流は「自信がつく」有効な活動です。コミュニケーション能力をさらに高めてほしいです。
			毎学期じめアンケートを実施し、気になる児童に教育相談を行い対応する。	「先生は悩みや相談をていねいに聞いてくれる」肯定評価80%以上	学校教育アンケート	年度末	アンケートではじめてわかる事象も多くあり、児童生徒とのコミュニケーションツールとして一翼を担っている。肯定的回答平均は9割を上回っている。	A アンケートを実施し、一人ひとりと面談することで、いじめやトラブルの未然防止になっている。来年度も継続して行っていきたい。	A こども同士の正しいコミュニケーションの教育に期待したいです。嫌な思いをしたこどもが、担任以外の先生に相談できる体制、またその情報を共有できる体制を充実させてください。
	体力向上	運動に親しむ環境を整え、体力を向上させる	体育の授業に加え、学校全体の取組である体育行事や、外遊びなどを通して、運動が苦手な児童にも配慮しながら運動への意欲を高める。	「運動」にかかわる項目で、肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	全学年で90%を超えており、運動に親しむ素地ができている。しかし、100%ではないので、苦手な児童も運動に親しめるような授業づくり等に取り組む。	A 「運動」にかかわる項目で、肯定的評価が平均90%以上である。引き続き、体育の授業や体育行事等を通して体力の向上をめざす。	A 運動の得意な子や苦手な子、好きな子や嫌いな子がいます。こどもたち個々の目標や能力に応じた「運動の形」の検討や、その目標達成での達成感を味わえる声掛けをお願いします。また、外遊びの機会を積極的に増やしてほしいです。
給食を通して食育を充実させ、児童が自らの健康について考える力を育成するとともに、好き嫌いをなく食べることが目標に食への興味関心が高まる取り組みを実施する。			「食」にかかわる項目で肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	学校アンケート結果では「食」に関する項目で90%だが、給食を好き嫌いをなく食べることに限っては90%を下回っている。さらなる取り組みが必要である。	A 給食の時間に栄養教諭が中心となり食育を進めた。また、配布物や掲示物等でも「食」に関する興味関心が高まるように取り組んだ。今後はさらに、好き嫌いをなく食べることの良さがわかるように働きかける必要がある。	A 貧しい国の実態やフード六の教育に注力してほしい。嫌いなものと感じて食べさせるのではなく、栄養を他のところから取るなども教えてあげてほしい。朝ごはん等食の大切さを、こどもたち、保護者へさらに伝えてあげてください。	
地域協働	信頼される学校	学校行事や日々の学級の様子について、情報を発信する。	●学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページを活用し、子どもの様子や学校情報を積極的に発信する。	「学園便り、学年便り、学級通信、学校ホームページは学園の様子がよくわかる」肯定評価90%以上	学校教育アンケート	年度末	学校アンケート結果では、89%、見やすさや行事・下校時刻などの訂正をなく、正しい情報を見やすくレイアウトする必要がある。ホームページは現状ぐらいの頻度での更新をめざしている。	A 保護者アンケート「学校ホームページ」では、90%の肯定回答。「学園だより、学年通信・・・」の質問では89%の回答を得た。引き続き地域や保護者の方への情報発信を積極的に行う。校内の様子を広く知っていただくことを通じて信頼される学校をめざしていきたい。	A ホームページには、教職員個々が積極的に載せてください。学園の様子を、保護者、地域へ知らせるための大切な手段ですから、写真等を見やすくするなど、さらに見てもらえる工夫を期待しています。

校長より(年度末) 【確かな学び】 情報活用能力については、アンケート結果において引き続き高い肯定的評価を得ている。今後も、より一層質的向上を進められるよう取り組んでいく。 【豊かな心・すこやかな体】 今年度は異学年交流を活性化させたことをはじめ、豊かな心を育む取り組みを充実させた。このことをとおして、自尊心がより一層高まるよう、今後も取り組んでいく。 【地域協働】 学園の取り組みを積極的かつわかりやすく発信することにより、地域協働の取り組みをより一層充実させていきたい。	学校関係者評価者から(年度末) 児童生徒の健康・安全などにも細かく配慮された教育活動が実践されていることを感じます。また、関西万博等を活用したたてわり活動など、小中一貫校の特徴を生かした取り組みも多くされていました。今後もこれまでの取り組みをさらに充実させ、こどもたちのさらなる成長につなげてほしいと思います。
---	---